

園だより



駿河台大学第一幼稚園

6月号



一学期も2か月が過ぎ、6月を迎えて折り返しになります。園庭ではポップコーン、ナス、ピーマン、オクラ、トマト、枝豆などの夏野菜や、夏の花・綿などを植えて生長を楽しみにしています。

先日、年長が遠足で行った前原公園には、大きなシンボルのようなクスノキがあり、暑い時にはみんなで涼めるだけの木陰を作ってくれています。また、トンボ池や蓮、菖蒲などの自然体系が守られたビオトープがあります。サクランボや梅の実も多く、興味の尽きない場所でした。池や草はらをじっと見ていると、パッと見た時には気づかなかったものが見えてきて、その発見に子どもたちは大興奮です。発見すれば人に教えたくなり、「見てみて!!」と友達を呼び、一緒に喜んでくれて探検家のように喜ぶ様子がありました。ちょうど幼稚園でおたまじゃくしを各組の水槽や園の共有の小さな池でも飼っていたので、まったく違う大きなおたまじゃくしの発見は、何倍にも嬉しかったようです。

せっかくのここでの体験を一時のものにするのは残念だったため、年長さんに答えは全部「くすのき」になるクイズなどを出しました。それが探検ごっこにつながったり、木や葉っぱのにおいや幹の質感に気づいたり、プールの中から見ると幼稚園の庭を楽しんだり、遊びに変化していくこの流れが幼稚園の遊びそのもので、幼児期ならではの総合的な体験を通して学びにつながっています。昨日は、3年めにして根付いて葉を实らせた山椒の強烈なにおいに気づいて「酸っぱい感じ」「レモンな感じ」と知っている言葉を並べていました。くちなしの花のにおいも子どもにはいいにおいではないらしく顔をしかめていました。自然物や自然事象を通してそれぞれが直接にかかわり、全身でいろいろなことを感じ、考え、自分の感覚を磨いてほしいと思います。

